

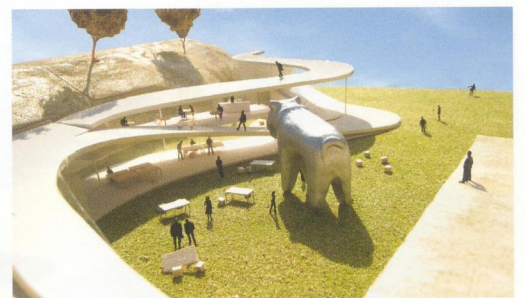
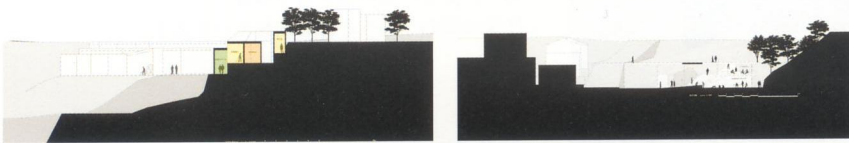
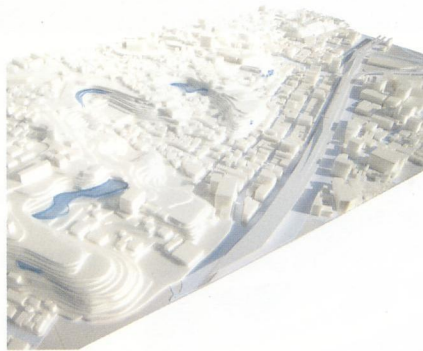
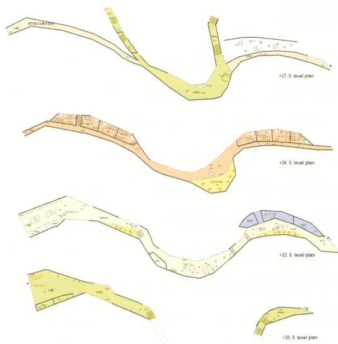
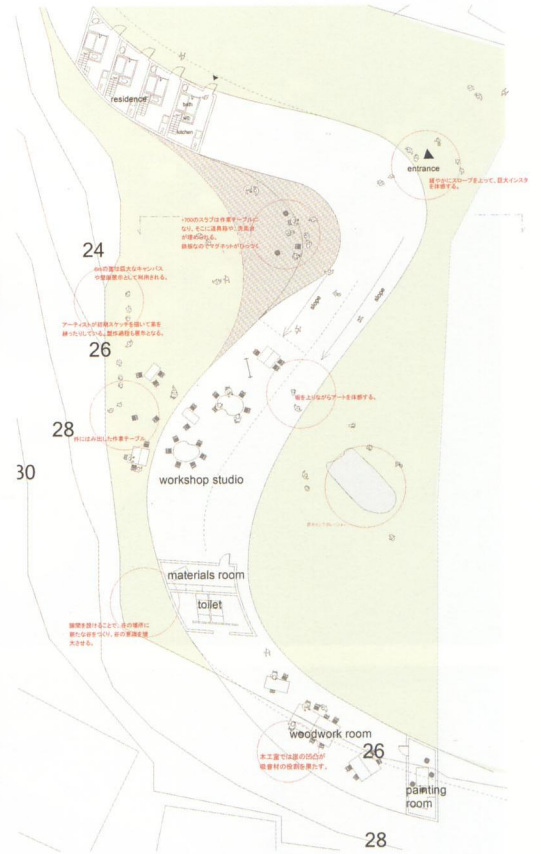
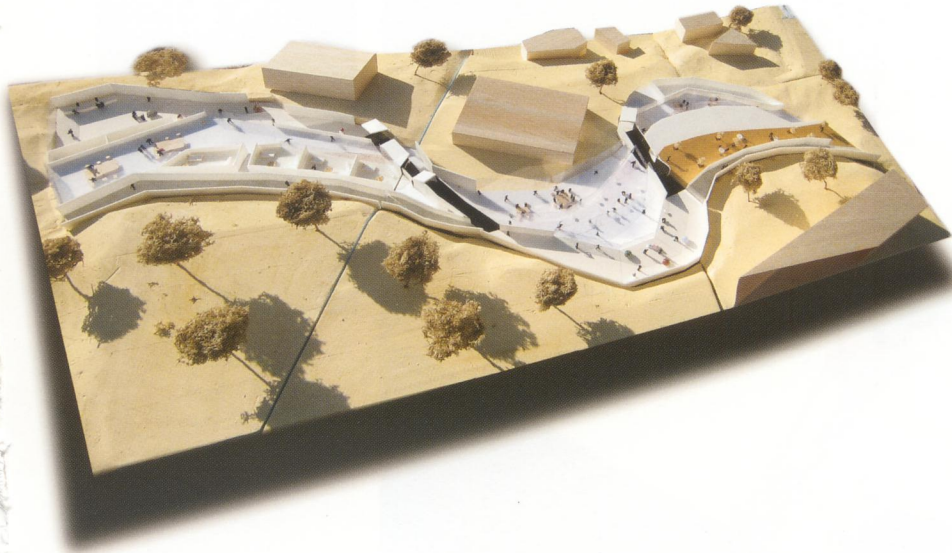


# GEOGRAPHIC ART MUSEUMS

地形的空間の可能性

中村有希 (なかむらゆき)

東京理科大学 理工学部建築学科



急な坂、奥が見えない急な階段、うねうねの道…。様々な複雑な地形的特長が、横浜山手には存在する。坂道を駆け上ると突然眼前に景色が開けたり、立ち位置で見えたり見えなかったり、住宅の屋根が大きな階段のように見えたり、情景の移ろいや視線の変化がわくわくさせる空間体験を生み出す。

そのような地形の潜在力を生かして、本計画では19haの山手の丘7箇所には様々なスケールの建築をバラバラと点在させた美術施設を提案する。プログラムは、アーティストインレジデンス形式をとり、約30人のアーティストを見込んだアート活動全般に関わる拠点とする。山と谷、人工と自然、それら対比するものせめぎ合いの中で、新しい空間を生み出し、そして新しいアクティビティを喚起する。

**【講評】** 横浜山手の「地形」には歴史を重ねた空間的面白さが潜在する。その中から、とぎれながらもつながりを感じさせる7ヶ所を抽出し、それぞれの特徴を活かした「地形的空間」を魅力的につくり込む。それにより19ha全体の空間の面白さを顕在化させたい。それらの感性を鋭敏にする空間こそ、新たなアート活動の場にふさわしい——。このような着想にリアリティを持たせるには、新しい「地形的空間」の完成度が成否を分けるが、模型で提示された「斜面」と「谷」の2ヶ所には、入念にスタディされた魅力ある空間が実現できており高い評価を得た。加えていえば、個々のつながり方や周辺への影響力を想像させるプレゼンテーションに、より一層の説得力があれば、さらに迫力のある作品になったと思う。 [審査員：柳瀬寛夫]